



通信

〒267-0053
千葉市緑区高津戸町
309-44-305
☎043-310-6175

令和六年度の
「津軽民謡新春公演」
が開催されました。

平成三年一月二日に始まった「津軽民謡
 新春公演」。令和六年年度の公演で三十三回
 を迎え、令和六年一月二日の公演が百一回
 目となり、三日の百二回目、四日の百三回
 目公演が、大勢のお客様をお迎えし浅草木
 馬亭で開催されました。
 浅草の町は賑わいを取り戻し、連日たい
 へんな人通りで雷門から本堂までびっしり
 の人々、通りの列で、本堂では熱心にお祈
 りされていました。
 出演者は藤田周次郎、白戸久雄、中澤美
 喜雄、佐々木鶴藤、上村正春、福士豊次、
 前川慶吾、須藤圭子、石川きよ美、内山久
 木子、おもだか秋子、朴俊希、勝田正子、鈴
 子、土生みさお、福士豊美香、栗原武啓、
 椿俊太郎、馬場邦彰、棚瀬敬太、米谷智、
 二代目原田英昌、山根菁童、印南榮翠、増
 田龍鳳、増田龍燕、増田龍宝、増田衣美
 江口和子、宇野きん弥、手踊ハッピー会
 社中、きん弥会社中、三宅良二（敬称略）
 の皆さま。ベテランから若手まで、津軽民
 謡、津軽三味線に津軽の手踊り、司会は藤
 四三。故郷に帰ることができなかつた方
 のでも故郷津軽を感じて頂けた公演になつた





第一回 千葉の民謡を唄おう 「民謡日本一選手権」 が開催されました

市一の選第一
れまの手権
が「が
ツ令
習和
志五
野年
市八
民月
ホ六
ー日
ルで
開習
催志
さ野

玉・当日は千葉県茨城県はもとより、東京・埼
部一、千奈川・茨城の部や福島県からも参加
民謡の二部門の優勝は九里大漁の民謡の部
唄部は江差追分を唄った鈴木亜由美さん
の部は優勝は江差追分を唄った鈴木亜由美さん
んが優勝は江差追分を唄った鈴木亜由美さん
室井美子（鴨川）の民謡の部、準優勝は
九里大漁（堀内）の民謡の部、準優勝は
甚句（堀内）の民謡の部、準優勝は
珠璃（森田）の民謡の部、準優勝は
頭（森田）の民謡の部、準優勝は
美子（森田）の民謡の部、準優勝は
がけ（森田）の民謡の部、準優勝は

（秋田）の民謡の部、準優勝は
追分（堀内）の民謡の部、準優勝は
古隆（堀内）の民謡の部、準優勝は
津磐梯（堀内）の民謡の部、準優勝は
岩根（堀内）の民謡の部、準優勝は
ち酒（堀内）の民謡の部、準優勝は
傘寿（堀内）の民謡の部、準優勝は
と六（堀内）の民謡の部、準優勝は





尺八に出会えて

米谷 智

私の故郷は山形県北部の最上町です。家には祖父がやっていたのか、尺八があり、子供ながらに遊んで吹いたりしているうちに、音が出るようになり「君が代」などを吹いていたのを覚えています。私の世代ですと、酒席で民謡がよく唄われていました。父親も一杯入ると「唄最上川舟唄」や「真室川音頭」をよく唄っていました。また山形でもなぜだか「安来節」が唄われていて有名な民謡なのだと思い覚えています。

私は十八歳で山形を離れ上京して、工務店に勤めました。当時は高度経済成長期で活気がありました。ある休日に、デパートのショーウィンドウで尺八を見かけ思い切ってそれを買いました。木管で竹製よりは安くて確か九千円でした。教則本も探したところ、菊池淡水先生の本があり、半音上げ下げするにはどうするか書かれており「ああ、こーやっていろいろな音を出すんだ」と、やっと長年の謎が解けました。

民謡のレコードを買ったその中に米谷威和先生との演奏の入った曲、その尺八の音色を聞いた時にはびっくりしました。「どうして、こんないい音が出るんだろー」と！

当時は民謡を習う人が多くて、勤め先の工務店の職人さんたちも民謡を習っていました。そこに私も一緒に習いにいくようになりました。我流の尺八も吹くようになって



そんな時に、民謡酒場で知り合った三味線の先生から「本格的に尺八が習いたいのなら」と米谷威和先生を紹介された。弟子入りすることになりました。それが米谷威和先生との出会いです。一年間は通いで教わり、その後本気で尺八をやろうと内弟子になりました。

内弟子ですから好きな尺八をやっている、それだけで十分でした。「先生が吹きたい」と、それだけを目標に頑張りました。

それから三年半は先生の抱持ちとして毎日スタジオなどに同行しては先生の演奏を間近で見、聞き続けました。この時の経験が私にとって大きな財産になっていきます。どうやってたら、あんな風に吹けるのか。指の動き、首の動き、顎の動き。すべて見て聞いて真似て覚えよう、心の中で歌っているように感じました。心その時に学んだことが私の演奏の芯になっていきますので、先生に似ていると言

われるのは当たり前ですし、嬉しい言葉です。とてもとても先生のように吹けません。が、目指している方向はきつと同じだろうと思います。内弟子を終えてからは、お弟子さんでもでき、色々な歌い手さんの専属伴奏として地方にも行かせて頂きました。

私は、民謡というのは、やはり「唄」が基本だと思っており、唄をいかに聞き手にきちんと届けるかに気を使っています。旋律を丁寧に演奏し、その上で、その唄の持つ雰囲気や吹き分けていくことを心がけています。山の唄、海の唄、作業唄、祝い唄やお座敷唄など、それぞれ異なります。そこは技術も必要ですが、むしろ「心」の在り方になってくると思っています。

私の師匠が心で歌って吹いていたように、私もそのようにありたいと思っています。振り返れば五十年程尺八を吹いていますが、まだまだ新しい発見や学びもあり、一生勉強と思っています。これからも芸に精進してまいります。

**世界の棟方志功さんは
山内たつさんの唄が好き
だった。**

鶴藤会会主 佐々木鶴藤

青森県出身のフォークシンガー三上寛さんはオフィシャルブログの中で山内たつさんのことを「彼女の名前を知っている人は津軽民謡に造詣の深い人と言えるだろう」とおっしゃっています。そして「私は山内たつさんを（ゴスペルの女王と呼べられた）マヘリア・ジャクソンの例えて

いた。そのたつさんが、ある日、何の前触れもなく逝った。原因はキタキツネが保持する病原菌だった。「昔ア北海道に巡業に行けばヤマのミズを飲んだものだから」親しい人が教えてくれた。その菌は素知らぬ顔で人間の体内に四十年も棲息する。キタキツネは放射能と同じレベルで恐ろしい、と記されている。それを見た私「鶴藤」はハッとあることを思い出しました。それは今から三十九年前に私が仕掛けた、山内たつさん最後となった舞台が蘇り、どうしても語り残したい思いに駆られ、ここに記すことにしました。

思い起せば一九八五年、昭和六十の初夏、私のお弟子さんのお兄様が山形県米沢市の民謡米菊会に所属されていた縁で私に、第十回記念大会にどなたかゲストを呼びたいとの相談を受け、当時、福士豊秋先生の門下生であった私は、津軽民謡女流横綱、山内たつ先生と福士豊秋先生との親子ショーを提案し、実現の運びとなりました。福士豊秋先生の奥様、福士由美子さん、今の二代目成田雲竹女さんとの三人の豪華な舞台が実現しました。大会当日の豪華な舞台が実現した。あの漫芸の第一人者、大湊八郎師ともお逢いした。思い出の大きい舞台に、私は三味線と、唄では「南部儀積み唄」で出演させて頂きました。米菊会の記念大会に参加出来た事に大満足の日を過ごすことが出来ました。大会終了後の打ち上げには、あの米沢牛が振舞われ、味わえたことも嬉しい思い出になっています。小野小町も旅の途中、温泉で病を癒したと伝わる、小野川温泉に宿泊。私と豊秋

先生が同室、隣の部屋には山内たつさんと由美子夫人、とそれぞれに分かれて寝床に。外は梅雨の残り雨に、台風並みの激しい雨が降り続いていました。私と眠りに付く少し前に豊秋先生は「俺、となりの部屋で少し話してくるワ」と親子三人で朝迄、降り続く雨に私も時々目を覚ましておられた様子、うらやましい話も感じながら朝を迎えました。今になって思えば、それが親子水入らずの最後になりました。豊秋先生は当然、朝お母



(青森りんご茶屋 在りし日の山内たつ先生)

追伸 先日一月二十八日の私の芸道五十周年と朴俊希さんのCD発売記念ジョイントコンサートには大変お世話になりました。難うございまして。盛況に執り行した。心より御礼申し上げます。

さん「東京に一緒に住みたいか」誘われたので「東京ね」との留守番がある。帰らねばまいね」との留守番がある。青森、東京へそれぞれ別路につきました。それが永遠の別れになりました。そして、それが永遠の別れになりました。日、訃報が届いた事が残念で残念でありませんでした。

あのキタキツネの病原菌が原因で黄泉の国へと旅立たれた山内たつさん。「わだば日本を代表する版画家、棟方志功さんに愛された山内たつさん。津軽三味線名人、木田林松栄師の激しく悲しい、あのタキ三味線に乗って唄われる山内たつさんの「津軽よされ節」を聴きながら、山内たつ・福士豊秋先生親子のご冥福を心よりお祈りいたします。合掌

民謡50周年 「民謡の架け橋」CD発売記念

佐々木鶴藤 朴俊希 パノラマ

ジョイントコンサート

令和6年1月28日(日)

開場▶13時00分 開演▶13時30分

響の森 桶川市民ホール

埼玉県桶川市若宮1-5-9 TEL. 048-789-1513

サウジアラビア

ケマム国際山岳パフォーミングアーティストイバルに参加しました

舞踊家 石井和美

この度、令和六年年一月に開催されました、中東のサウジアラビアで開催された舞踊フェスティバルにご縁を頂き参加させて頂きました。

サウジアラビアの音楽、芸能と世界二十三国から参加した民族舞踊が一同に集まるフェスティバルでした。

特に世界の山岳民族が、どのように自らの芸能を形にしているかということを紹介しているもので、日本には富山県こきりこ節をリクエスト頂きました。

日本からは、日舞、民舞の舞踊家十六名で日本チームを作り、こきりこ節を中心に、日本舞踊の方は日本髪を結び、白塗りをして日本らしさを演出。民舞は八木節、南部俵積み唄を傘や扇を使って披露。フィナーレは全員で桜の花を持って披露。花見踊りと約20分の日本を感じていただけたというプログラムを十八回ステージと多数会覧いただきました。

フェスティバルの開会式、閉会式では二十三国がそれぞれ山車を出してパレードをしました。日本の山車の上には大阪城と東京タワーと桜の木が飾られていて、山車の周りで黒石よされ、花笠音頭などを踊りながらパレードをしました。山岳地帯ということもあり、標高も、





二千メートル以上の場所ばかりで体調管理が大変でしたが、遺跡やお城などで踊ることができ、大変貴重な体験をさせていただきました。

まだ、日本人はあまり訪れる方も少ないようで、旅の間、現地の方々から日本人は、はじめて見た！このホテルに日本人が来たのははじめてです！等、大変珍しいと声をかけられることが多かったです。

私たちも、日本を代表する使命を感じながら踊ってまいりました。

サウジアラビアは三年前から観光に力を入れていて、今後このフェスティバルも観光客でいっぱいになることを望んでいるようでした。

このフェスティバルは三回目の開催とこのことでしたが、日本は今回が初参加でした。

この度は、貴重な文化交流に参加させていただき心から感謝しております。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

房総のうた のつれづれに ④

④ 関宿土端打唄 (千葉県野田市関宿)

古来、利根川は太平洋ではなく、江戸湾（現在の東京湾）に注いでいました。現在のような流路となったのは

数次に渡る瀬替えの結果で、近世初頭から行われた河川改修工事は利根川東遷事業と呼ばれ、現在の利根川の骨格がつくられました。

徳川家康が主導した東遷事業の目的は、江戸を利根川の治水から守り、新田開発を推進すること、舟運を開いて東北と関東との交通・輸送体系を確立することなどに加えて、東北の雄、伊達政宗に対する防備の意味もあったと言われています。利根川はたびたび氾濫（川の水が増えて堤防が壊れて溢れ出ること）して多くの被害をおよぼしてきましたが、昭和二十二年九月に襲ったカスリーン台風が引き起こした氾濫は、かつて無いほどの大変大きな被害をもたらしました。

度重なる水害でその後の堤防改修工事は、近所の農家の若い衆（男女）そして主婦の方々が大勢出て、この土手普請（土端打）に汗を流し、この作業は朝から日暮れまで続いたようです。土端棒を持ち、堤防の斜面をたたきながら唄う姿は、音頭取りそして作業の連中が一同に唄う。いわば唄いながらの作業でした。（当時の土端打ちの作業風景の写真は平成二十一年に、奏英こころの舟下り 利根川ものがたり 発行に際し野田市教育委員会から提供頂いた写真です）このような光景が目で見て想像がつかみます。特に夏の暑い日の作業は頬かむりで、かなり辛い重労働だったと思われます。長時間の単純な重労働を、親方（音頭取り）さんは



じめ疲れを紛らわすため、作業の合間に唄われ、調子をかけたのでしょ。朝から日暮れまで音頭を取りながら日を暮らす。うたは仕事のはずみの。

関宿土端打唄 (千葉県民謡)

エードーナー エードーナー

ソーリヤ私や (ドッコイセ)

十七ナーア (ドッコイセ)

関宿育ち ナーハンソーリヤエ

土端打ち (ドッコイセ)

音頭でナーアハンヨ

ヤンナ 日を暮らす 面やや

(ハアヨーイヨイ)

ソーリヤ土端の柳は

嵐でもめる

私や主さんで 気がもめる

ソーリヤ佐野も上州も

古川関宿も

水の流れは皆同じ

ソーリヤ鐘が鳴るぞえ

七つの鐘が

帰る私は 主の船

◆出場者 大募集

第二回千葉の民謡を唄おう

「民謡日本一選手権」

日時 6月2日開催

会場 ブラッツ習志野

市民ホール

◆「千葉の民謡の部」

◆「全国の民謡の部」

趣旨

民謡を通じて郷土文化、地元産業を広く全国に知らしめ、合わせて地域社会の福祉及び情操教育の向上に寄与することを目的とします。

出場資格

民謡愛好家ならどなたでも出場できます。

演奏時間

二分程度

募集人員

合わせて二百曲

出場申込料

一部門の場合は五千円。両方の部門にエントリーで

表彰

「千葉の民謡の部」優勝者には千葉県知事賞(申請中)

「全国の民謡の部」優勝者には習志野市長杯(申請中)賞状

各部門優勝盾、賞状

各部門二位—十位 賞状

副賞 千葉県産お米

同封の申込書にて申し込み下さい。
宜しくお願いいたします。

第一回の大会の反省を踏まえ準備を進めております。ご協力下さいますようよろしくお願いいたします。

◆秋田県小坂町

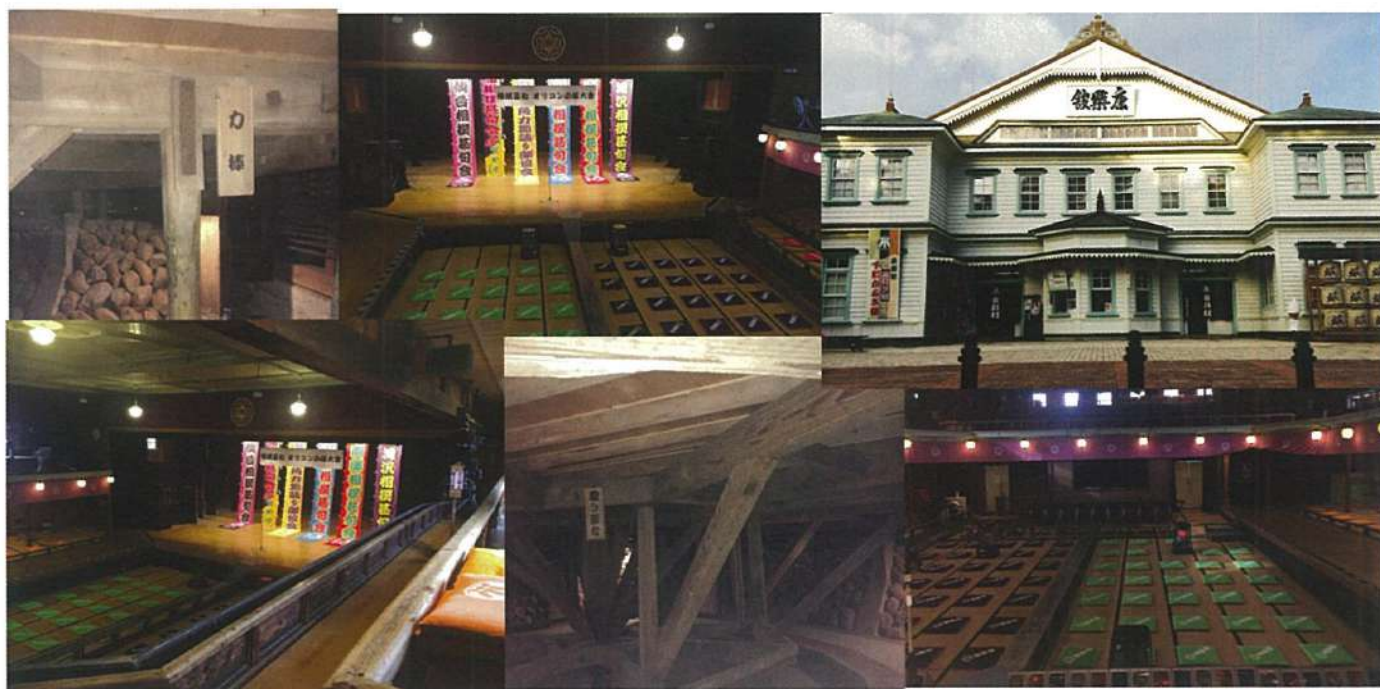
明治の芝居小屋

「康楽館」を訪ねる旅 参加者募集

年に一度、親睦旅行を計画しており
ましたが、昨年計画しました伊勢神宮
奉納芸能は申込手続きが完了していな
かったミスで中止になりましたこと、
お詫び申し上げます。楽しみにされて
いた皆様には誠に申し訳ございません
でした。また数年後に計画してみたい
と思います。

さて今年の旅行は、秋田県小坂町を
計画しております。小坂町は秋田県の
最北にあり十和田湖の秋田県側の町で
、明治時代には鉱山で繁栄したところ
です。明治四三年、鉱山の厚生施設と
して建てられたのが明治の芝居小屋「
康楽館」です。建物は国の重要文化財
で、旧金毘羅大芝居（香川県仲多度郡
琴平町）や永楽館（兵庫県豊岡市）と
ともに、日本最古級の劇場の一つとし
て知られています。柿落としては大阪歌
舞伎の尾上松鶴一座の公演であったそ
うです。現在は五月から十一月初めま
で歌舞伎や大衆演劇の公演が行われて
います。

十一月十日に相撲甚句のイベントが
あり、それに合わせて舞台に立てるよ
う準備を進めております。ぜひご参加
ください。詳しくは後日改めてご案内
させていただきます。



編集後記

ついこの間、年が明けたと思ってい
ましたが、早くももうすぐ三月。平素
は本法人の活動にご支援とご協力を賜
りまして誠にありがとうございます。
お陰で設立してから丸三年。四年目を
迎えようとしております。今年も四月
十四日の「春の華まつり」六月二日の
千葉の民謡を唄おう「民謡日本一選手
権」と張り切っていると思っております。
引き続きご支援を賜りますようお願い
申し上げます。

不定期で発行しております「会報」
昨年四月以来十か月ぶりになりました
今回の五号にも寄稿下さいまして有難
うございました。この場をお借りしま
して御礼申し上げます。印刷に変えて
三号目。写真を多めに取り入れ作成し
ました。充分に注意したつもりですが
、誤字脱字等がありましたらお許し下
さい。

会報の次号は今秋を予定しておりま
す。テーマは何でも結構です。民謡に
、ついてでも結構ですし、民謡以外の
事でも大歓迎です。我が人生、昔話、
将来の夢、最近の出来事、等々寄稿下
さいますようお願いいたします。お待ちし
ております。引き続き会場確保の難し
さを感じております。ご協力下さいま
すようよろしくお願いいたします。
梅のつぼみも膨らみ始め春の訪れを
告げていますが、三寒四温の折、どう
ぞご自愛くださいますようお願い申し
上げます。

民謡民舞の祭典

春の華まつり二〇二四

唄 藤田周次郎

白戸久雄

石川きよ美

中澤美喜雄

朴俊希

上村正春

三宅良二

御崎京子

増田龍鳳

花柳和代衛

坂東末都伎

宇野きん弥

江口和子

高津秀恵

真樹邦佳

澤乃唱子

金崎日出子

増田龍宝泉

増田衣美

三味線

笹本壽

津軽三味線

鶴家奏英

小山竜昇

福士豊美香

栗原武啓

椿俊太郎

尺八

二代目

原田英昌

米谷智

山根菁童

西川啓光

荒井ふみ子

美波駒寿

美波駒寿三

西田美和

峰田雅葉

司会



森脇忍

宮本星宝舟

安井喜久子

山登秀夫

村木美千代

渡辺みさ子

福田順次

上石由男

榎原美佐子

矢野彩子

中野紗紀

太田大輝

大槻里子

小林則江

伊藤環

坂田せつ子

飯川ひろ子

武藤京子

龍鳳会

千代会

澤乃流

英昌会

手踊りハッピー会

勝田正子

小能晴麗

鈴木久子

山本富美子

風見英美

有田明美

金子修

鈴木サダヨ

米倉奈津子

佐々木紗彩

中野結紀

太田美咲

佐藤れい子

堀ミチ子

曾田キヨ

大友キミ子

田中志郎

野村あや子

きん弥会

みづき会

旭舟会

令和6年4月14日

開演／12：30(開場／12：00)

会場／亀戸文化センター

カメラアホール

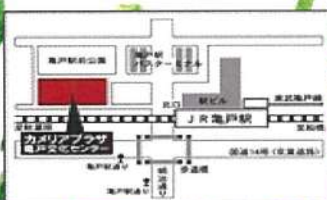
江東区亀戸2-19-1

入場料

前売 3000円

当日 3500円

全席自由



◆ 都合により出演者に変更がある場合があります。ご了承くださいませようお願い致します。

◆ コロナ感染症対策のため、なるべくマスク着用でご来場ください。会場入り口で検温させていただきます。37.5℃以上の方は入場をお断りさせていただきます。また定員に達し次第入場制限される場合があります。ご了承くださいませようお願いします。

主催 NPO法人民謡民舞公演実行委員会

【問合せ先】〒267-0053 千葉市緑区高津戸町309-44-305

TEL090-9828-0648 FAX043-310-6175 Email: oshami-miyake@outlook.jp

第二回 千葉の民謡を唄おう

民謡日本一選手権

「千葉の民謡の部」 「全国の民謡の部」

東京のとなりの千葉には、都会的な

雰囲気と四季折々の風光明媚な

大自然があります。海あり川あり、

田畑あり、南国情緒あり。

酒造りや、醤油造り、歴史ある産業が

あります。人情があります。

海の唄、大漁の唄、川の唄。

力強い唄、粋な唄、のどかな唄

先人たちのお陰で、数多くの

民謡が残されています。

千葉は民謡の宝庫です。

千葉の民謡を唄おう。

千葉の民謡を唄い継ごう。

工作教

令和6年

6

月

2

(日)

入場無料

開場／9：30 開演／10：00

会場／プラッツ習志野市民ホール

習志野市本大久保3-8-19 京成大久保駅徒歩1分

主催：特定非営利活動法人 民謡民舞公演実行委員会

後援：習志野市 公益財団法人日本民謡協会 一般財団法人日本郷土民謡協会 チバテレビ

株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ

読売新聞千葉支局 東京新聞千葉支局 公益財団法人千葉市文化振興財団

千葉日報社 毎日新聞社千葉支局 朝日新聞千葉総局

千葉市教育委員会

【問合せ先】NPO法人民謡民舞公演実行委員会

TEL090-9828-0648 FAX043-310-6175 Email: oshami-miyake@outlook.jp